

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	教授
氏名	桐山 昇		
NAME			

1. 研究課題

（和文）21世紀国際システムの新形成・日本のポジションの研究  
 —メディア論・文化論的要素を組み込んだ国際体系論アプローチの開拓—

（英文）

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究は、「東日本大震災」、及び福島原発事故から生じた、日本企業と製品、さらに日本「人」イメージ、「日本ブランド」に対する国際的反応の変化プロセスに表出される国際システム上の諸問題を整理分析し、これを素材として、21世紀国際システムの方向性を究明することを主な目的とした。「冷戦」体制、及び社会主義体制が崩壊して20年間、国際システムの方向性は揺らいだままであり、この傾向は日本の大震災と原発事故未鎮圧の事態下でさらに決定的となった。ここに金融・財政問題などを超える人類的課題が提起されていると思われる、これらを実地調査に重きをおきながら必要とする研究を進めている。なお国際システム上、死活のテーマである「温暖化」・「環境」問題の基礎に、西欧世界の1960年代後半期の自然観の転換があるとするのが一般的だが、それは「東洋的自然観」への転換、接近でもある。しかし国際システム上の潮流は、むしろ「原理主義的」西欧型の転換自然観の強要が進行してきた。福島原発事故未鎮圧、大震災への「日本的」対応は、この連続潮流の転換ともなり得る。

本研究では、現地調査を第一義的に実施した。具体的には、①2012年7～8月、2013年2～3月にEU加盟国とASEAN加盟国計12カ国18都市で、ヒアリング、ショッピングモールを中心に各種量販店の店頭調査などをおこなった。今後、ここで得られた各種データ、情報を、他機関が実施している各種データと照合しながら、分析・解析し、所期の課題解決に結びつける。

（英文）

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<b>【学术论文】</b> （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
未定
<b>【学会発表】</b> （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
<b>【図 書】</b> （著者名、出版社名、書名、刊行年）
研究タイトル（21世紀国際システムの新形成）で単著纏める予定
<b>【その他】</b> （知的財産権、ニュースリリース等）